

伝えたい「戦中・戦後」の暮らし

昭和館では、常設展示室において「戦中・戦後の国民生活上の労苦」に係る歴史的資料を展示しております。

また、このような実物資料を活用した展覧会を各地でも開催してほしいという要望があり平成13年から各地で実施してきたところ、このたび巡回特別企画展「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」を、宇都宮市において開催する運びとなりました。

本展では、実物資料を中心に、厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真を通じ、母や子の様々な思いや労苦、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介します。栃木県に係る実物資料や写真、手記等も多数展示致します。

つきましては、各催しの告知、初日のオープニングセレモニーの取材など、貴媒体にて報道して頂きたいお願い申し上げます。



出征・東京
昭和19年(1944)2月
瀬下恵美提供

記

【会 期】	平成26年1月26日(日)～2月3日(月)
【時 間】	9時30分～18時00分(最終日 9時30分～14時00分) ※初日は、9時30分からオープニングセレモニーを行います。
【会 場】	栃木県総合文化センター 第4ギャラリー (栃木県宇都宮市本町1-8)
【入 場 料】	無料
【主 催】	昭和館(厚生労働省委託)
【協 賛】	日本遺族会第2ブロック(栃木県遺族連合会 東京都遺族連合会 神奈川県遺族会 千葉県遺族会 埼玉県遺族連合会 茨城県遺族連合会 静岡県遺族会 群馬県遺族の会 山梨県遺族会 長野県遺族会 新潟県連合遺族会)
【後 援】	栃木県 栃木県教育委員会 宇都宮市 宇都宮市教育委員会 下野新聞社 朝日新聞宇都宮総局 読売新聞宇都宮支局 毎日新聞社宇都宮支局 産経新聞社宇都宮支局 NHK 宇都宮放送局 株式会社とちぎテレビ 株式会社栃木放送 株式会社エフエム栃木
【問い合わせ】	〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1
	TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575 学芸部 渡邊・坂尻
	http://www.showakan.go.jp watanabe@showakan.go.jp

展示構成

本展では全体を4つのコーナーに分けて、宇都宮餃子の歴史や益子焼き等、栃木県に係る資料も多数織りまぜながら紹介します。

「Ⅰ 家族の別れ」

出征する人たちや戦地の家族の無事を祈る人々の様子を紹介します。



千人針

「Ⅱ 戦中の暮らし」

昭和 12 年(1937)に日中戦争が始まり、人々の生活に現れた戦争の影響や、徐々に空襲が激しくなる様子を紹介します。



金属回収で集められた品々
昭和 17 年(1942)3 月
毎日新聞社提供



ヤスリがけに励む国民学校女子児童
昭和 18 年(1943)12 月
毎日新聞社提供



空襲の罹災者に配給された益子焼きの日常食器

昭和 20 年(1945)3 月 10 日の東京大空襲の罹災者に配給された組食器。東京都本所区(現・墨田区)の罹災者が毛布などとともに配給を受け、戦後もしばらく使用していた。

大量生産された日常食器であろうが、肉厚のどっしりとした形状、素朴で温かみのある釉薬など、益子焼の特徴をよくあらわしている。



防空服装

「Ⅲ 戦争が終わって」

終戦を迎え、焼け野原から復興に向けて再出発した人々の様子を紹介します。



国鉄(現・JR)宇都宮駅で復員者らを待ち受ける市民

昭和 21 年(1946)～25 年
読売新聞宇都宮支局提供



墨塗り教科書

昭和 20 年(1945)から 21 年にかけて使用された。軍国主義的だったり民主主義に反するような内容が墨でぬられたりした。



毎日の楽しみは紙芝居

読売新聞宇都宮支局提供

宇都宮餃子の歴史

(中略)この最初の餃子ブームの理由にはいくつかの説があります。戦後、北京や満洲など中国東北部からの引揚者が現地で覚えた餃子で商売を始めると、かつて宇都宮にあった第十四師団の兵士たちがこぞってこれを食べ、一般の人々にも広まったという説もそのひとつです。いずれにしても餃子が一般市民の支持を得たことで餃子店が繁盛し、餃子を提供する店が増えていったようです。また宇都宮は小麦や白菜、豚肉、ニラの産地で手に入りやすく、餃子を商品にしやすかったことも背景になっていると思われます。

(協同組合宇都宮餃子会編『宇都宮餃子公式ガイドブック』より引用)。

「Ⅳ 慰霊の旅」

混乱した戦後の労苦を乗り越えた戦没者遺族たちの、戦没者への断ちがたい思いから行われるようになった戦没者慰霊事業の様子を紹介します。



モンゴル戦没者遺骨帰還・焼骨

平成 23 年(2011)8 月 31 日
栃木県宇都宮市 眞塩正道提供



飯盒

パラオ諸島ペリリュー島・水府山にて
収集された遺留品。銃弾が貫通した
跡が残る。

検索・体験コーナー

会場内には展示の他にも以下の各種コーナーを設置しています。

・「映像コーナー」

戦中・戦後の生活を経験した方々の証言をまとめた「昭和館オーラルヒストリー」の他、昭和館が所蔵するニュース映画のなかから、栃木県関する番組をご覧くださいことができます。

＜栃木関連映像例＞

『読売ニュース No.154～興亜少女隊－栃木～』昭和 15 年 2 月

『アサヒホームグラフ No.38～日本一の兵隊ゴッコ 栃木県中村小学校～』昭和 15 年 3 月

・「^{せんしそうしょ}戦史叢書／陸軍・海軍部隊略歴」検索・閲覧コーナー

『戦史叢書』と『部隊略歴』を電子化し、検索端末にて情報の提供を行っております。

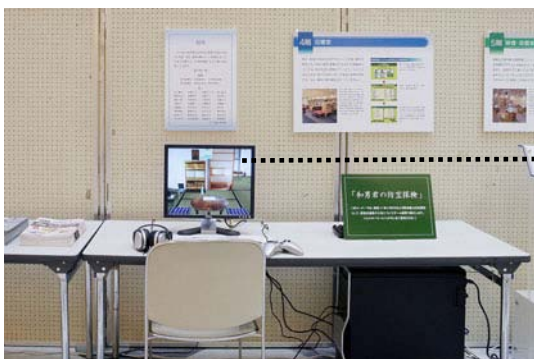
戦史叢書は各地の図書館に所蔵されていますが、パソコン上で検索可能なシステムは当館独自のものです。

※ 戦史叢書とは、防衛研究所戦史室が編纂し、朝雲新聞社より出版された公刊戦史(全 102 巻)です。

※ 陸軍・海軍部隊略歴は、主に陸・海軍の部隊の編入から武装解除（復員）等までの部隊の行動を記したものです。

・「和男君の防空探検」

昭和 17 年(1942)に刊行された『防空絵とき』を題材として、パソコンを使って、防空の道具や工夫についてゲーム感覚で紹介します。



・「着てみよう」

国民服や防空頭巾など、戦中・戦後の衣服を着たり帽子をかぶることができます。

